

STAGE+を楽しむ(221)(HP 収載)

—ジュリアード弦楽四重奏団—

1. 始めに

前報(220)に引き続き、STAGE+のジュリアード弦楽四重奏団のベートーヴェンとヴィトマンの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、STAGE+のジュリアード弦楽四重奏団のベートーヴェンとヴィトマンの演奏を選びました。

ジュリアード弦楽四重奏団がベートーヴェンとヴィトマンを弾く

ライブ配信

ピエール・ブーレーズ・ザール

再配信 2025 年 1 月 23 日 10:00

再配信 2025 年 1 月 23 日 20:00

ジュリアード弦楽四重奏団が、ベートーヴェンの大作と作曲家イェルク・ヴィドマンの《ベートーヴェン・スタディ》を奏でる様子をお届けします。冒頭に奏されるベートーヴェンの op. 130 は「弦楽四重奏曲の中の弦楽四重奏曲」であると、ヴィトマン自身が語っています。彼が作曲した弦楽四重奏曲第 8 番と第 10 番（《ベートーヴェン・スタディ》）は、ベートーヴェンのこの作品に応じて書かれたものです。ニューヨークを拠点とする有名なジュリアード弦楽四重奏団が、19 世紀初頭の傑作と、それにインスピレーションを得た 21 世紀の音楽に、伝統的そして革新的に挑む、貴重な演奏会です。

演奏:

ジュリアード弦楽四重奏団

曲目:

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン 弦楽四重奏曲第 13 番変ロ長調 op. 130

イェルク・ヴィトマン 弦楽四重奏曲第 8 番 (ベートーヴェン・スタディ III)

イェルク・ヴィトマン 弦楽四重奏曲第 10 番《カヴァティーナ》

(ベートーヴェン・スタディ V)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン 大フーガ変ロ長調 op. 133



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への **Crystal EpY-G** の接続を継続し、PC の仮想アース **Crystal E Jtune** に **Crystal E** を連結しています。1月23日 10:00 からの再配信を試聴しました。定刻前には、別の弦楽四重奏団の以前の演奏が流されていました。

ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第13番と大フーガはお馴染みの曲で、ヴィトマン弦楽四重奏曲第8番と第10番は初めて聴くものです。これらはジュリアード弦楽四重奏団が現代音楽作曲家のイェルク・ヴィトマンに委嘱し、ベートーヴェンにインスピレーションを得た「ベートーヴェン・スタディ」として作曲されたものです。

ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第13番は、地味な曲で緊張感のある演奏です。ヴィトマンの弦楽四重奏曲第8番は、アグレッシブな奏法による現代曲ですが、ところどころにベートーヴェンの弦楽四重奏曲もモチーフらしい旋律が顔をのぞかせます。

ヴィトマンの弦楽四重奏曲第10番は、第8番と同様、現代曲ですが、落ち着いた表情で、ところどころにベートーヴェンの弦楽四重奏曲のモチーフらしい旋律が顔をのぞかせるところは第10番と同様です。

ベートーヴェンの大フーガは、演奏会でもアナログでも配信でもお馴染みで、ジュリアード弦楽四重奏団が緊張感のある演奏を聴かせてくれます。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結した結果、ベートーヴェンとヴィトマンの弦楽四重奏曲の緊張感のある演奏が再現されました。

以上